

暗記カード 8 月 31 日版

問題 No.	質問	回答
問 68	小児の疳(かん)とは、どのようなものか？	<ul style="list-style-type: none"> ● 小児では、特段身体的な問題がなく、基本的な欲求が満たされていても、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状が現れること
問 68	小児の疳(かん)の原因は、何だと言われているか？	<ul style="list-style-type: none"> ● 不安や興奮から生じる情緒不安定や神経過敏が要因のひとつと言われている。 ● 睡眠のリズムが形成されるまでの発達の一過程とも考えられている。 ● 乳児は食道と胃を隔てている括約筋が未発達で、胃の内容物をしっかり保っておくことができず、胃食道逆流に起因する「むずがり」、夜泣き、乳吐きなどを起こす
問 68	小児鎮静薬の目的の 2 つとは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①小児の疳による症状の鎮静 ● ②虚弱体質、消化不良の改善
問 68	小児鎮静薬の服用期間は？	● 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間(1ヶ月位)継続して服用される
問 68	小児の疳(かん)に対する保護者の留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達段階の一時的な症状と保護者が達観することも重要である ● 小児鎮静薬を保護者側の安眠等を図ることを優先して使用することは適当でない
問 68	小児の疳(かん)に対して、何を目的として生薬を配合しているか？	<ul style="list-style-type: none"> ● 小児の疳は、痩せて(やせて)血が少ないことから生じると考えられており、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている ● 鎮静と中枢刺激のように相反する作用を期待する生薬成分が配合されている場合もあるが、身体の状態によってそれらに対する反応が異なり、総じて効果がもたらされると考えられている。
問 68	小児の疳(かん)に使用される生薬と主な作用は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴオウ、ジャコウ —— 鎮静作用、血液循環促進作用 ● レイウカク —— 鎮静作用 ● ジンコウ —— 鎮静作用、健胃作用、強壮作用 ● カンゾウ —— 健胃作用
問 68	乳児に対して使用の制限は？	● 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合にあっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。

問題 No.	質問	回答
問 69～70	鎮咳去痰薬の 4 つの目的とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①咳を鎮めること ● ②気管支を広げること ● ③痰の切れを良くすること ● ④気道の炎症を和らげること
問 69～70	中枢神経に作用する鎮咳薬の 2 種類とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①麻薬性鎮咳剤——コデインリン酸塩、ジヒドロコデインリン酸塩 <名称にコデイン> ● ②非麻薬性鎮咳剤——ノスカピン、デキストロメトルファン、チペピジン、ジメモルファン、クロペラスチン

問 69～ 70	中枢神経に作用する麻薬性鎮咳薬の2つとは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①コデインリン酸塩 ● ②ジヒドロコデインリン酸塩 ● *名称は「コデイン」
問 69～ 70	麻薬性鎮咳剤の使用上特に注意する3つとは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①長期連用や大量摂取によって、薬物依存につながるおそれがある。 ● ②胎児に移行するので、妊娠中や授乳中の人は服用しないか、授乳を避ける ● ③胃腸の運動を低下させるので、便秘に注意する
問 69～ 70	麻薬性鎮咳剤の小児への使用で特に注意する点は？	● 12歳未満の小児等に使用しないよう注意喚起を行うこと。
問 69～ 70	中枢神経に作用する非麻薬性鎮咳薬の5つとは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①ノスカピン、②デキストロトルファン、③チペピジン、④ジメモルファン、⑤クロベラスチン ● *成分名だけでも覚える
問 69～ 70	中枢性の鎮咳作用を有する生薬は？	● ハンゲ
問 69～ 70	交感神経刺激の気管支拡張薬の①作用、②代表的な3つの成分名	<ul style="list-style-type: none"> ● ①交感神経系を刺激して気管支を拡張させ、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮める ● ②(1)メチルエフェドリン、(2)トリメキノール、(3)メキシフェナミン ● *メチルエフェドリンは、乳汁中に移行するので注意する
問 69～ 70	気管支拡張作用を有する①生薬成分は何か ②その主な3つの作用は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①マオウ ● ② (1)気管支拡張作用、(2)発汗促進作用、(3)利尿作用
問 69～ 70	マオウを含む漢方製剤の①使用上の注意点と、②その理由は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人には、医師又は薬剤師に相談する ● ②交感神経系への刺激作用によって、心臓血管系や、肝臓でのエネルギー代謝等にも影響があるため
問 69～ 70	依存性の面で①注意する気管支拡張作用薬は？ ②その理由は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①メチルエフェドリンとマオウ ● ②中枢神経系に対する作用が他の気管支拡張薬に比べて強い
問 69～ 70	キサンチン系薬剤のジプロフィリンの①他の薬剤との違いは何か？ ②留意する点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①交感神経を刺激せずに、気管支の平滑筋を直接弛緩させて気管支を拡張させるので、交感神経による副作用が出にくい ● ②キサンチン系も中枢神経系の興奮作用があり、甲状腺機能障害又はてんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがあり、医師又は薬剤師に相談する
問 69～ 70	痰の切れを良くする去痰薬を4つに分類し、その代表的な薬剤は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用——グアイフェネシン、グアヤコールスルホン酸カリウム、クレゾールスルホン酸カリウム ● ②痰の粘性タンパク質の溶解・低分子化による粘性減少作用——エチルシステイン塩酸塩、メチルシステイン塩酸塩、カルボシステイン ● ③粘液成分の含量比を調整し痰の切れを良くする作用——カルボシステイン ● ④分泌促進作用・溶解低分子化作用・線毛運動促進作用——ブロムヘキシン塩酸

問 69～ 70	気道の炎症を和らげる抗炎症薬は何か？ 関係する生薬は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● 気道の炎症を和らげることを目的として、トラネキサム酸、グリチルリチン酸二カルウム ● グリチルリチン酸を含む生薬成分として、カンゾウがある ● カンゾウは、グリチルリチン酸による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌促進作用がある
問 69～ 70	カンゾウの使用に際しての留意点は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● カンゾウを大量に摂取するとグリチルリチン酸の大量摂取につながり、偽アルドステロン症を起こすおそれがある。 ● むくみ、心臓病、腎臓病又は高血圧のある人や高齢者では偽アルドステロン症を生じるリスクが高いため、それらの人に1日最大服用量がカンゾウ(原生薬換算)として1g以上の製品を使用する場合は、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談する等、事前にその適否を十分考慮する ● 短期間の服用に止め、連用しないこととされており、5～6回使用しても咳や喉の痛みが鎮まらない場合には、漫然と継続せず、いったん使用を中止し、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
問 69～ 70	グリチルリチン酸の総量管理が必要な理由は？	<ul style="list-style-type: none"> ● グリチルリチン酸を含むカンゾウは、かぜ薬や鎮咳去痰薬以外の医薬品にも配合されていることが少なくなく、また、甘味料として一般食品等にも広く用いられるため、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くならないよう注意を促す
問 69～ 70	偽アルドステロン症とは、①どのような状態か？ ②主な症状は？ ③病態が進行すると？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①副腎皮質からのアルドステロン分泌が増加していないにもかかわらず、体内に塩分(ナトリウム)と水が貯留し、体からカリウムが失われることによって生じる病態である。 ● ②手足の脱力、血圧上昇、筋肉痛、こむら返り、倦怠感、手足のしびれ、頭痛、むくみ(浮腫)、喉の渇き、吐きけ・嘔吐 ● ③筋力低下、起立不能、歩行困難、痙攣等を生じる
問 69～ 70	偽アルドステロン症とは、①発症しやすい人は？ ②原因は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①小柄な人や高齢者が発症しやすい ● ②原因となる医薬品の長期服用、複数の医薬品や医薬品と食品との間の相互作用によって発症する
問 69～ 70	偽アルドステロン症の対応の際の留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 偽アルドステロン症の初期症状に常に留意する等、慎重に使用する ● どのような人が対象であっても、1日最大服用量がカンゾウ(原生薬換算)として1g以上となる製品は、長期連用を避ける。 ● 初期症状に不審を感じつつも重症化させてしまう例が多いので、偽アルドステロン症が疑われる症状に気付いたら、直ちに原因と考えられる医薬品の使用を中止し、速やかに医師の診療を受けること ● * 偽アルドステロン症の発症の可能性の有無による早期発見の仕組みが必要
問 69～ 70	鎮咳去痰作用をもつ 10 の生薬は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ① キョウニン、② ナンテンジツ、③ ゴミシ、④ シャゼンソウ、⑤ オウヒ、⑥ キキョウ、⑦ セネガ、⑧ オンジ、⑨ セキサシ、⑩ バクモンドウ
問 69～ 70	鎮咳去痰作用をもつ 7 の漢方薬は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①甘草湯、②半夏厚朴湯、③柴朴湯、④麦門冬湯、⑤五虎湯、⑥麻杏甘石湯、⑦神秘湯

問 69～70	鎮咳去痰薬を服用する場合に、併用に注意する4つの薬は？ その理由は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①鼻炎薬、②睡眠改善薬、③乗物酔い防止薬、④アレルギー一用薬 ● 理由——同じ成分又は同種の作用を有する成分が重複摂取となり、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなったりするおそれがあるため
問 69～70	鎮咳去痰薬の服用の際に、受診勧奨が必要な4つの場合は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①発熱を伴い、咳がひどく痰に線状の血が混じったり、黄色や緑色の膿性の痰を伴ったりする場合は、呼吸器に細菌やウイルス等の感染を生じている可能性があるため、受診勧奨する ● ②咳や痰、息切れ等の症状が長期間にわたっている場合には、慢性気管支炎や肺気腫(次第に肺胞が壊れて、呼吸機能が低下する病気)などの慢性閉塞性肺疾患(COPD)の可能性があり、受診勧奨する ● ③喘息は、気管支粘膜の炎症が慢性化すると発作を繰り返し、生命に関わる呼吸困難につながることもあり、一般用医薬品の使用によって対処を図るのでなく、早期に受診勧奨する ● ④ジヒドロコデインリン酸塩、メチルエフェドリン塩酸塩等の反復摂取によって依存を生じている場合は、早期に受診勧奨する

問題No.	質問	回答
問 71	トローチ剤、ドロップ剤の使用時の注意は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡るよう、口中に含み、噛まずにゆっくり溶かすようにすること
問 71	噴霧剤の使用時の注意は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出したりしながら噴射すること
問 71	含嗽剤の使用時の注意は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られないので、正しく希釈すること ● 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすいので、含嗽後は飲食をさけること
問 71	口内炎等の状態が悪化している場合に注意する点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 口内炎などにより口腔内にひどいただれがある人では、刺激感等が現れやすいほか、循環血流中への移行による全身的な影響も生じやすくなるので、受診勧奨する。
問 71	口腔咽頭薬、含嗽薬で医薬部外品として扱われる5つの限定範囲とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● 効能効果が、①痰、②声がれ、③喉の荒れ・不快感・痛み・腫れ、④口腔内や喉の殺菌・消毒・洗浄、⑤口臭除去に限定されるもの
問 71	喉の荒れや痛みなどの鎮静作用で使用する代表的な3つの抗炎症剤は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①リゾチーム塩酸塩 ● ②グリチルリチン酸二カリウム ● ③トラネキサム酸
問 71	リゾチーム塩酸塩の2つの使用に際しての留意点は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①ショック(アナフィラキシー)や皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症のような重篤な副作用を生じることがあること ● ②鶏卵アレルギーの既往歴がある人では使用を避ける必要がある
問 71	アズレンスルホン酸ナトリウム(水溶性アズレン)の使用目的は？	<ul style="list-style-type: none"> ● 炎症を生じた口腔内の粘膜組織の修復
問 71	口腔内の細菌等の微生物の殺菌消毒を目的に使用する9つの薬剤は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①セチルピリジニウム塩化物、②デカリニウム塩化物、③ベンゼトニウム塩化物、④ポピドンヨード、⑤ヨウ化カリウム、⑥ヨウ素、⑦クロルヘキシジングルコン酸塩、⑧クロルヘキシジン塩酸塩、⑨チモール

問 71	口腔の殺菌消毒剤で、重篤な副作用(ショック)のある 2 種類の薬剤は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①ヨウ素系殺菌消毒剤 ● ②クロルヘキシジングルコン酸塩
問 71	ヨウ素系殺菌消毒剤の使用時に「相談する場合」とは？	● 口腔内の使用により、ヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性があるため、パセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響(治療薬の効果減弱など)を生じるおそれがあるため、使用する前にその適否につき、医師又は薬剤師に相談すること
問 71	妊婦や授乳婦に対してヨウ素系殺菌消毒剤の使用時の留意点とは？	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨウ素の一部は血液-胎盤関門を通過して胎児に移行するため、長期間にわたって大量の使用は、甲状腺機能障害を生じる危険性がある。 ● ヨウ素が乳汁中に移行するので、留意する。
問 71	ヨウ素系殺菌消毒剤の使用時の副作用等への留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①副作用である、口腔粘膜の荒れ、しみる、灼熱感、悪心(吐きけ)、不快感が現れることがあるので、予め伝え、発生した場合には、使用を控えるように説明しておく ● ②銀を含有する歯科材料(義歯等)が変色することがある
問 71	クロルヘキシジングルコン酸塩が配合された含嗽薬の使用時の留意点は？	● 口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける
問 71	日本薬局方収載の複方ヨード・グリセリンのグリセリンの目的は何か？	● 喉の粘膜を刺激から保護するため
問 71	口腔咽喉薬に抗ヒスタミン成分が配合されている場合の①目的は？ ②留意点は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①咽頭の粘膜に付着したアレルゲンによる喉の不快感等の症状を鎮めるため ● ②鎮咳去痰薬のように、<u>咳に対する薬効を標榜することは出来ない</u>
問 71	咽頭粘膜に作用する 2 つの生薬成分は？	<ul style="list-style-type: none"> ● ①ラタニア ● ②ミルラ
問 71	喉の痛み等の鎮静作用を持つ 4 つの漢方製剤とは？	● ①桔梗湯、②驅風(くふう)解毒散・驅風解毒湯、③白虎加人參湯、④響声破笛丸(きょうせいはいてきがん)
問 71	喉の痛み等の鎮静作用を持つ漢方製剤に共通に含まれる生薬は？	● カンゾウ
問 71	喉の痛み等の鎮静作用を持つ漢方製剤の使用上の留意点は？	● 5~6回服用して症状が改善しない場合や、高熱を伴う場合は、細菌等の二次感染を生じている可能性もあるので、漫然と使用を継続せずにいったん使用を中止して、受診勧奨が必要
問 71	ヨウ素との相互作用の面から留意する点は？	● ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると殺菌作用が失われるため、そうした食品を摂取した直後の使用や混合は避けることが望ましい。
問 71	飲食物を飲み込む時に激しい痛みを感じる場合の留意点は？	● 扁桃の周辺が細菌の感染により炎症を起こした状態であったり、扁桃の部分に膿が溜まった状態であったりする可能性があり、早期に医師の診療を受けるなどの対応が必要
問 71	声がれ、喉の不快感、のどの痛みなどが数週間続く場合の留意点は？	● 喉頭癌等の重大な疾患が原因となっている可能性もあるので、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。